

## オーディオ実験室収載

### モーツアルト盤を聴く(97)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(97)—

#### 1. 始めに

前報(96)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は歌曲や器楽を集めた盤です。

**FSM VOX FSM 33006/7**

モーツアルト **Die Complete Frimauremusik**

Peter Mark 指揮 Orchester der Wiener Volksoper

#### 3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

FSM VOX 盤はイコライザー特性が不明のため、条件を変えながら聴いていきました。RIAA の正相で聴き始めましたが、音がぼやけていますので位相反転し、イコライザーカーブは TELDEC が音の焦点があって引き締まった印象ですので、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきました。

この盤には 17 曲の合唱曲と独唱曲、構成を変えた器楽曲やオーケストラ曲などが収録されています。解説がドイツ語ですので読みとれませんが、Frimauremusik というのはフリーメイソンのための音楽ということで、その全集ということになります。モーツアルトとフリーメイソンの関係ですが、モーツアルトはフリーメイソンの思想に共鳴していたようで、そのような関係から、この音楽を作曲したとのことです。

どの曲も穏やかで落ち着いた表情の曲が多く、合唱の分離が十分でないところもありましたが、ソリスト達の歌唱や器楽曲の楽器の質感は十分に出ています。

#### 4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E などの総合的な効果

として、上記の盤の様々な曲の特徴が把握できました。

以上/